

# 図画工作、美術

## 令和5年度 授業改善のポイント

- (1) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどの学習の中心となる考えを引き出しながら、児童生徒の表したい主題への意識を高め、創造活動への見通しをもつことができるようにする。
- (2) 児童生徒が生み出した表したいことや主題を基に、主体的に表現を試したり考えを交流したりする活動を通して、多様な表現に触れることができるようにする。

### 表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させた授業づくり

#### 【指導事例】「目的や機能などを考えた表現」「作品や美術文化などの鑑賞」

表現と鑑賞の指導の関連を図る際には、発想や構想と鑑賞の学習の双方に働く中心となる考え（学習の中心）を軸にそれぞれの資質・能力を身に付けられるようにすることが大切です。発想や構想と鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させて学びを積み重ねることが、より豊かで創造的な「思考力、判断力、表現力等」の育成につながります。

#### 中学校第3学年「〇〇公園を案内しよう～多様な人々に伝わるピクトグラム～」（全7時間）

学習の中心：目的や条件などに基づいて、他者や社会に対し、形や色彩などを用いて美しく分かりやすく伝えるデザインの働きなどについて考えること。

#### 1 鑑賞（1時間）

●ピクトグラムを鑑賞し、伝達のデザインに対する見方や感じ方を深めるとともに、形や色彩が感情にもたらす効果や、全体のイメージで統一感などを捉えることを理解することができる。

- S1：ピクトグラムは、形がシンプルで似ているけど、伝えたいことが一目で分かるようにつくられているね。全体的なまともも大切なんだね。
- S2：確かに。文字がなくても何を表しているのか分かるから、子どもにも伝わると思うよ。色は二色だけ使われていて、様々な色の組合せがあるね。それぞれに意味がありそうだよ。
- S3：そうだね。黄色と黒色の組合せは、危険を知らせている感じがするな。工事現場の看板に使われていたよ。形や色の組合せで、伝わる意味も変わってきそうだね。

◇様々な目的や用途で使われているピクトグラムの鑑賞を行い、伝達のデザインの意図や表現の工夫、共通性などについて感じたことや考えたことなどを述べ合う場を設定することが大切です。

#### 3 制作（2時間）

●発想や構想を基に、意図に応じて表現方法を創意工夫し、見通しをもって表すことができる。

#### 4 鑑賞（1時間）

●生徒作品を鑑賞し、伝達のデザインについての見方や感じ方を深めることができる。

学習を終えたとき、「ピクトグラムを描いたこと」だけが生徒の中に学びとして残るのではなく、「形や色彩などの造形の要素の働きによって気持ちや情報を伝えること」「伝える相手や場面などに応じて、より効果的に伝えるためには何が大切かを考えること」を学びとして身に付けていることが重要です。

発想や構想と鑑賞に関する資質・能力の相互の関連を図ることは、表現活動において発想や構想と関連する創造的に表す技能を高めることにもつながります。



表現と鑑賞は密接に関係しており、「A表現」と「B鑑賞」の相互の関連を十分に図り、資質・能力を身に付けられるように指導計画を工夫する必要があります。

●学習のねらい ◇指導のポイント  
S：生徒 T：教師

#### 2 発想や構想（3時間）

- 鑑賞の学習で学んだことを生かしながら、伝える相手、施設や場所のイメージなどから主題を生み出すことができる。
- 生み出した主題を基に、形や色彩が感情にもたらす効果や、分かりやすさと美しさなどの調和、統一感などを総合的に考え、表現の構想を練ることができる。

T：お互いのアイデアスケッチを見てみましょう。公園を利用する人に伝わるか考えてください。



【S1、S2、S3のアイデアスケッチ】

- S1：人の表し方に統一感がないな。
- S3：確かに。人の描き方を同じようにしたらどうかな。危険を伝えるには、黄色と黒色を使うといいと思うよ。
- S2：いいね。高齢者や子どもにも分かりやすいように、もっと単純にしたいな。
- T：アドバイスを基に、デザインを見直しましょう。

◇第1学年の内容を一層発展させ、より多くの人に分かりやすく伝えるために、客観的な視点に立って互いの作品を見たり作品の意図を説明したりするなど、伝達の効果と美しさなどの調和を総合的に考える場を設定することが大切です。

学習の中心